

岡田美優¹⁾, 醍醐笑部²⁾, 木村和彦³⁾, 作野誠一³⁾¹⁾ 早稲田大学スポーツ科学研究科博士課程²⁾ 筑波大学体育系³⁾ 早稲田大学スポーツ科学学術院

キーワード: 障害者スポーツ教育プログラム, アウトカム評価, 尺度開発, 障害者スポーツ
Key words: educational adapted sports program, outcome evaluation, program evaluation,
scale development, adapted sports,

【抄録】

本研究では、車いすバスケットボールを題材とした障害者スポーツ教育プログラム(以下、障スポ教育プログラム)が参加者にどのような影響を与えているかという問いに対し、社会的インパクト評価の研究で評価対象となるアウトカムに着目し、障害者スポーツ教育プログラムのアウトカム評価尺度の作成と信頼性・妥当性の検討を目的とする。

まず障害者スポーツ教育プログラムで作成したフィールドノートをもとにインタビューガイドを作成し、障害者スポーツ教育プログラムの関係者5名に対しインタビュー調査を実施した。次に、インタビューで得られたデータや先行研究をもとに尺度作成を行った。測定尺度は、大きく「障害者に関するアウトカム」と「障害者スポーツに関するアウトカム」の2つに分かれ、それぞれ12項目と10項目の合計22項目で構成された。作成した尺度を用いて関東圏内の小中学校6校に在籍する生徒887名を対象に質問紙調査を行い、得られたデータを分析することで尺度の妥当性の検討を行った。

項目分析の結果、障害者スポーツ教育プログラムのアウトカムを測定する尺度は13項目となった。残った13項目には一定の妥当性と信頼性が確認され、収束的妥当性及び弁別的妥当性も示された。因子分析の結果、障害者スポーツ教育プログラムのアウトカム尺度のうち、「障害者に関するアウトカム」は2因子構造となり、「障害者スポーツに関するアウトカム」は1因子構造となった。本研究では、先行研究で扱われている項目とは異なる独自の項目が抽出される結果となったが、こうした項目はプログラムを実際に運営し参加者と直接関わりをもつ者のインタビュー調査から作成されており、プログラム実施後すぐに実感できる直接的なアウトカムに関する項目や、よりプログラム参加者の実態に沿った内容の項目が抽出されたと考えられる。削除された項目に関しては、小中学生にとっては曖昧で答えづらい質問項目になっていたことや、規範意識からほとんどの回答者がポジティブな回答をしたことにより回答に偏りがでてしまったことが要因として考察された。

スポーツ科学研究, 20, 39-59, 2023年, 受付日:2022年9月6日, 受理日:2023年4月26日

連絡先: 岡田美優 早稲田大学 202-0021 西東京市東伏見 2-7-5

ghbpmy@toki.waseda.jp